卒業生への BOOK LIST

卒業・修了おめでとうございます！

これから社会に旅立つ皆さんに、ぜひ読んでほしい本、
20代で読んでほしい本などを先生方に選んでいただきました。
ぜひ、今後の読書にお役立てください！

2014.1

BOOK LISTにご協力いただいた先生方

● 工学部

機械知能工学研究系

図書館長　鶴田隆治先生

物質工学研究系

中戸晃之先生、高瀬聡子先生、毛利恵美子先生

先端機能システム工学研究系

趙孟佑先生、高原良博先生、花澤雄太先生

人間科学系

本田逸夫先生、八丁由比先生、匿名希望の先生
イアン・Ｃ・ラックストン先生

● 情報工学部

電子情報工学研究系

小田部荘司先生、藤原暁宏先生、前田佳均先生

機械情報工学研究系

河野晴彦先生

生命情報工学研究系

安永卓生先生

人間科学系

栗原好郎先生

● 工学部

機械知能工学研究系

図書館長　鶴田隆治先生のおすすめ

海賊とよばれた男（上・下）
百田尚樹　講談社

2012　ISBN:9784062175647 (上)　9784062175654 (下)

本館 閲覧室１階 ベストセラーコーナー

分館 閲覧３階 文学

（本館）

913.6 H-164 1

913.6 H-164 2

（分館）

913.6 H-127 1

913.6 H-127 2

第10回本屋大賞を受賞した歴史小説で、話題の「永遠の０」とともに百田尚樹の代表作。主人公のモデルが赤間出身で、門司にも縁のある出光興産の創始者“出光佐三”である点も心が躍る気がします。彼の人間愛と、日本人であることの誇りと勇気、そして自信を持つことがいかに大切であるかを感じさせる作品です。
石炭から石油に変わって発展した日本のエネルギー経済社会について、戦争を含む歴史の裏舞台を覗くこともでき、エネルギーの重要性を再認識すると思います。

中戸晃之先生のおすすめ

（本館）　（分館）

080 / I-1 / 169　　081 / I-4-1 / 202-1

論語

金谷治訳注

岩波書店（岩波文庫, 青(33)-202-1, 青-129,884-885a）

1971.10-1983.2　本館 閲覧室１階　※2001年出版のワイド版岩波文庫（169）を所蔵

分館 閲覧3階総記

昨年のブックリストで「中国古典は教養の宝庫であり、人生のよき伴侶である。」と書いた。中国古典から何か一つ、となると論語をおいてほかにない。論語は、1000年以上にわたって日本人の教養の指標であり続けてきた。だから、江戸時代の庶民（論語は常識の書だった）の教養レベルとみなさんの教養レベルも、論語を物差しとして比較できるのである。

先祖の話

柳田国男　角川学芸出版 (角川ソフィア文庫)

384 / Y-1

2013　ISBN：9784044083151　本館 閲覧室２階　※本学では筑摩書房（1975）を所蔵

この本は、太平洋戦争の戦況が悪化する中、日本人の信仰のあり方を未来に残そうとして書かれた。日本人にとっての神とは突き詰めれば祖霊であり、我々の生活を規定している数多くの文化的伝統は、祖霊との間の魂のやりとりに根源がある。入手しやすい形で復刊されたこの名著を、ぜひとも読んで欲しい。

セレンディピティー：思いがけない発見・発明のドラマ

R. M. ロバーツ著；安藤喬志訳　化学同人

402 / R-1

（本館･分館）

1993　ISBN：4759802495　本館 閲覧室１階 ベストセラーコーナー

分館 閲覧３階 自然科学

科学史上の重要な発見には、偶然の産物がたくさんある。しかしこれらは、偶然に潜む重要性を見抜いて、ものにするまで努力できる能力（セレンディピティー）がなければ産まれなかった。本書に記された多数の実例を読んで、自己研鑽に結びつけるかスルーするか。セレンディピティー（の能力）を鍛えることはそこから始まる。

- 技術者倫理とリスクマネジメント ： 事故はどうして防げなかったのか?

  中村昌允　オーム社

  507
  N-27

  2012　ISBN: 9784274068720　本館 閲覧室３階

副題に「事故はどうして防げなかったのか？」とある。知識と目前の実態とを論理的に連絡させる、複雑な現象に対して根本まで遡って再構築する、といったことが習慣づいていない組織に、事故は防げない。だから、社会全体として「なぜ」を深く考えない風潮が強まれば、事故が増えるのは当然である。

高瀬聡子先生のおすすめ

- 重力とは何か ： アインシュタインから超弦理論へ、宇宙の謎に迫る

  大栗 博司　幻冬舎（幻冬舎新書）

  （本館･分館）
  423.6
  O-1

  2012　ISBN:9784344982611　　本館 閲覧室３階
  分館 閲覧３階 自然科学

世界は１０次元という超弦理論を知ると、発想が広がります。難しいかもしれませんが、素直に受け止めて読んでください。

毛利恵美子先生のおすすめ

- ラッセル教育論

  ラッセル　岩波書店（岩波文庫 33-649-2）

  081
  I-4-1
  649-2

  1990　ISBN:4003364929　　分館 閲覧３階 総記

１９２０年代に書かれたものですが、現代においても新しさが感じられる名著。「広い見識を持つことが相対的に自分自身への執着を減らし、結果的に幸福をもたらす」というのは、教育の効用として意外と忘れられているように思います。

■ マキアヴェッリ語録

塩野 七生　新潮社; 34刷改版

311.2
S-16
2

2009　ISBN: 9784101181066　本館 閲覧室２階

大人になるということは、多くの人にとって、自分の意思とは関係なく、様々な立場を生きなくてはならなくなることだと思います。イタリア、ルネサンス期の政治思想家マキアヴェッリは徹底的に現実的な指針を与えてくれます。

■ 「空気」の研究

山本七平　文藝春秋

081.6
Y-1
1

1997　ISBN:4163646108　分館 閲覧３階 総記

日本の意思決定機構の解説。「日本」が「普通」だと思っている人にこそ読んでほしい一冊。これからどうすればよいかはともかく、まずは状況を把握することが重要では？

■ 橋本治という立ち止まり方

橋本治　朝日新聞出版

914.6
H-50

2012　ISBN：9784022510013　本館 閲覧室１階 ベストセラーコーナー

１０代の頃、国語の先生に紹介してもらった著者の名前を見て、本学の図書館で久しぶりに手に取りました。「わからない」ことを「わからない」と言うことは案外難しいことですが、時には立ち止まり、「わからない」というところから始めることも大事だと思います。

趙孟佑先生のおすすめ

- 火車
  宮部みゆき　双葉社

  913.6 M-94 (本館)　913.6 M-64 (分館)

  1992.7 ISBN: 4575231177 本館 閲覧室２階　学生用図書
  分館 閲覧３階 文学　学生用図書

高原良博先生のおすすめ

- 吉田松陰
  奈良本辰也　岩波書店(岩波新書；青版-55)

  081 I-2 55

  1968 本館 閲覧室１階 文庫

  若い時代の生き方を学びました。

- 古寺巡礼
  和辻哲郎　岩波書店

  (本館) 702.1 W-3　(分館) 081 I-4-1 144-1

  1969I 本館 閲覧室２階　分館 閲覧３階 総記（分館は文庫版を所蔵）

- 文明のかたち(思想との対話 10)
  吉川幸次郎　講談社

  108 S-5 10

  1968 本館 閲覧室１階

- 月山
  森 敦　河出書房新社

  913.6 M-45

  1979 本館 閲覧室２階

花澤雄太先生のおすすめ

- 勝ち続ける意志力：世界一プロ・ゲーマーの「仕事術」
  梅原大吾　小学館(小学館101新書:132)

2012　ISBN: 9784098251322　本館 閲覧室１階 ベストセラーコーナー

798.5
U-1

現役プロ格闘ゲーマーとして活躍し続ける梅原大吾氏の著書、
様々な事柄で勝ち続けるための著者の考え方がまとめられた一冊。

人間科学系

本田逸夫先生のおすすめ

日本では20世紀の末年頃から、貧困・格差や不正規雇用の拡大などの深刻な問題が顕在化してきた（あるいは、遅まきながら気づかれてきた）。グローバル化やポスト産業社会化を背景にした諸政策の転換（市場主義的な方向への）、経営哲学の変化（株主価値の極大化への）、労働組合の弱体化などの結果として、かつての比較的平等な社会は過去のものになったのである。それは、ある程度までは世界的な傾向とも重なっている。

激しく変化しつつある社会の現実を理解し、個人としての働き方、生き方と、社会の将来のあり方とを考える上で、下記の著作は、いずれも小冊（新書判）ながら、教えられるところが大きい。

出版の時間的な順序とは逆になるが、以下の順番でこれらを読んでいけば、学生（卒業生）諸君にとって時間的及び内容的により近く、興味をもちやすい作品を手始めにして、職業（労働）、貧困、社会保障などの問題について学び、日本社会の変容と個人的・社会的に必要な対応について、理解を深めていけるだろう。

とりわけ、雇用・労働や貧困、社会保障などに関して、いかに不正確な、または偏った見方、あるいはまた、無視や隠蔽さえもが横行してきたか、そしてそれらが問題の解決を妨げてきたか――その事実を知ることは、重要である。

余裕がなければ、せめて最初の著作だけでも読んでほしい。

- ブラック企業：日本を食いつぶす妖怪
  今野晴貴　文藝春秋
  2012　ISBN: 9784166608874　本館 閲覧室１階 ベストセラーコーナー
  分館 閲覧３階 社会科学

  335.2 K-9 (本館)　335.2 K-2 (分館)

- 反貧困：「すべり台社会」からの脱出
  湯浅誠　岩波書店(岩波新書；新赤版 1124)
  2008　ISBN: 9784004311249　本館 閲覧室１階 文庫　分館 閲覧３階 文庫本コーナー

  (本館)　(分館)
  081 I-2-4 1124　081 I-2 1124

- 現代の貧困：ワーキングプア/ホームレス/生活保護
  岩田正美　筑摩書房
  2007　ISBN: 9784480063625　本館 閲覧室２階　分館 閲覧３階 社会科学

  (本館･分館)
  368.2 I-1

『ブラック企業』と『反貧困』は、ともに、それぞれの年の大佛次郎論壇賞を受賞している。事実、若手の気鋭の論客として、著者たちの問題提起と分析は鋭い。

今野氏は、大学生時代に、政財界が不正規雇用を増やすことを要求し、事実それが実施されてきた（つまり、正社員が減少してきた）にもかかわらず、学生は「正社員になれ」と説かれている事実にたいし、「強烈な違和感」を覚えて、労働相談や調査のためにNPOを仲間と結成した、という。　その活動の中でブラック企業の問題と出会ったわけだが、その存在は正社員になってももはや安泰ではない、という意味で、若者の雇用における新しい問題を提起するものだ、と指摘している。

その著作で紹介・分析されている、ブラック企業（誰もが知っている会社もいくつか含まれている）の数々のテクニックは、驚くべく狡猾で悪辣である。その結果、多数の新入社員が自分自身を責め続けうつ病になって、自己都合退職に追いこまれてきた、という。

ブラック企業から個人が身を守るためには、自分を責めるな、会社の主張は疑ってかかれ、簡単に諦めるな、労働法や専門家を活用せよ、という内容から成る「戦略的思考」が必須だ、と氏は説いている――そして、氏がいうように、「ホワイト」から「ブラック」への変質も起こりうるとすれば、若者は専門分野ができても、エライ人（政府機関や上司など。教師も？）の「善意」におまかせの社会オンチであっては、確かに危険であろう――。

さらに、ブラック企業が、若者の使い潰し、コストの社会への転嫁などを通じて、日本社会自体を「食い潰」しかねないと指摘し、それが出現した背景（「日本型雇用」の変質ないし悪用）や必要な社会的対策についても、労働政策・労働社会学などの視角から、立ち入って論じている。

今野氏の日本像＝「落とし穴社会」「ロシアンルーレット社会」は、湯浅氏のそれ＝「すべり台社会」よりも深刻な面があり、近年における状況の悪化がうかがわれるようである。

「すべり台社会」とは、三層のセーフティネット、すなわち、雇用、社会保険、公的扶助（生活保護）のそれが綻びて、いったん不安定雇用ないし失業に陥ると、社会保険や公的扶助も受けられずに、貧困状態まで滑り落ちてしまう、という日本社会のあり方を指す、湯浅氏の造語である。

「貧困状態に追い込まれた人々と直に接する現場」で活動してきた（かつ、日雇い派遣労働の経験もある）氏らしく、『反貧困』では、そうした人々の苦難の実態や苦境に至る経緯が述べられている。

そして、貧困が見逃され、さらには意図的に隠されさえする、ということとの関係で、貧困やそれに由来する虐待などの原因をもっぱら当事者の意識や資質に帰したり（「自己責任」論など）、生活保護の不正受給ないし「濫給」のバッシングに熱心な一方でそれよりはるかに膨大な「漏給」を軽視したり、あるいは生活保護以下の収入で生活する人々の存在を理由に生活保護基準を下方修正することにより、貧困の深刻化を進めたりする、といった転倒や、役所の担当者が生活保護の申請を妨害してきた、という事実などが指摘されている（これらの問題の多くは、『現代の貧困』でも言及されている）。

実践家としての経験にもとづく、著者の洞察や提言も貴重である。たとえば、貧困に陥ることを防ぎエネルギーを与える有形・無形の「溜め」という概念、その一つとしての困窮した人々の「居場所づくり」「相互交流」の重要性や、労働問題と生活問題の連携の必要、「自助努力の過剰」によって行きづまることなく互助や必要な情報を得やすくするための仕組みづくりの工夫、など。

なお、ネット上の動画などで湯浅氏の講演に接してみることも、すすめたい。ひょうひょうとしてユーモラスな語り口と、わかりやすく的確な論旨が特徴的である。

岩田氏は、例外的に早くから日本における貧困の存在を注視し、理論的・実証的な検討を重ねてきた研究者である。そうした蓄積に基づいて、『現代の貧困』は、貧困とは何か、という根本的な問題の学説史をはじめとして、「貧困の再発見」の背景、ホームレスなどに対する不正確で歪んだ見方の由来や、貧困の実態――たとえば、それを見えなく（あるいは固定化）する「装置」である、労働宿舎やネットカフェ、低学歴、非婚・離婚、離職・転職などの諸状況の「重なり合い」など――を明らかにしている。その上で、必要な政策的対応などを説いており、非常に充実した内容である。

そして、貧困への対応を通して、「私たちの社会そのもの」、その存立が問われているのだ、という氏の指摘は、特に重要である。他の先進国は戦後の福祉国家、「豊かな社会」に潜む貧困の「再発見」を「しつこく」行なってきた。それと対照的に、日本では貧困の存在が（政財界の指導者のみならず、労働組合や市民運動、学界などからも）長く看過されてきた、と氏は述べている。その事実は、（高度成長以後の）日本人の精神における、根本的な欠落ないし退廃を示すものではなかろうか。

さらに、今後の日本社会のあり方を考える上でも示唆的な仕事として、次も読んでみるとよい。たとえば、貧しい人々を食い物にする（官・民による）「貧困ビジネス」の増殖という現象は、湯浅氏なども強調しているように、けっして対岸の火事ではない。

- ルポ貧困大国アメリカ
  堤未果　岩波書店(岩波新書；新赤版 1112, 1225)
  2008-　ISBN: 9784004311126 ([1]) ; 9784004312253 (2)
  本館 閲覧室１階 文庫 分館 閲覧３階 文庫本コーナー

（本館）081 I-2-4 1112　081 I-2-4 1112-2
（分館）081 I-2 1112　081 I-2 1112-2

- 生きるということ：読書による道案内
  宮田光雄　岩波書店（岩波ジュニア新書, 126）
  1987.6 ISBN: 4005001262 本館 閲覧室1階　学生用図書
  分館 閲覧３階 総記　学生用図書

019.1 M-6 (本館)　019.2 M-1 (分館)

思想史・政治学の碩学による読みやすく、かつ高度な「人生論」。　メルヒェンの示す叡知や人文・社会科学の現代的成果が叙述の中に縦横に織り込まれており、読書の手引としても有益。

- 雑食動物のジレンマ：ある4つの食事の自然史　上・下
  マイケル・ポーラン 著　ラッセル秀子 訳
  2009.11 ISBN: 9784492043523 (上)　9784492043530 (下)
  本館 閲覧室3階　学生用図書
  分館 閲覧３階 自然科学　学生用図書

（本館･分館）498.5 P-2 1　498.5 P-2 2

「雑食動物」とは人間を指す。食という、人間の最も日常的な営みの工業化が異様なほどに昂進し、文明と生態系の存続が危うくなっている。その現状と歴史を、学問的（学際的）・思想的に分析するだけでなく、自ら農場での労働や狩猟などのフィールドワークも行なって明らかにし、問題克服の試みにも及んだ仕事。理系／文系の（日本的？）境界を超えた学際的な広い視野と良い意味でのジャーナリズムの精神とが融合した、知的刺激に満ちた達成。文章も洗練されている。米国の複数の出版賞を受賞。

クアトロ・ラガッツィ：天正少年使節と世界帝国

若桑みどり　集英社　（文庫版もあり）

210.4 W-3 (本館)　210.4 W-1 (分館)

2003.1　ISBN: 4087753263　本館 閲覧室2階　学生用図書
分館 閲覧３階 歴史　学生用図書

異文化の共存と寛容という現代的な課題を念頭に、戦国時代に、スペインの世界帝国へ派遣された九州の４人の少年使節の運命を辿った、美術史家のライフワーク。　本格的で壮大なスケールの良心的な研究。

日本政治のしくみ

石川真澄

岩波書店（岩波ジュニア新書；255）

312.1 I-11

1995.6　ISBN: 4005002552　本館 閲覧室2階　学生用図書

本学ＯＢでジャーナリスト（全国紙編集委員など）、大学教授などとして活躍した著者による日本政治のしくみの解説。簡にして要を得た記述の価値は、刊行から二十年近く経た今も失われていない。大学で政治学の講義を履修しなかった人でも、この本くらいは目を通してもらいたい。

版元品切れだが、図書館や古書店で見つかるだろう。

八丁由比先生のおすすめ

- テクノヘゲモニー
  薬師寺泰蔵
  中央公論社（中公新書, 914）

  081
  C-1
  914

  1989.3　ISBN: 4121009142　本館 閲覧室１階 文庫　学生用図書

電気工学科出身の国際関係学者が執筆したユニークな本。

国家の興亡を技術の視点から説いている。歴史、政治、経済、技術革新、移民等々、様々な要素を含むが、単純に読み物としてもおもしろい。

サブタイトルは「国は技術で興り、滅びる」。

先生のおすすめ（匿名）

- あなたは英語で戦えますか：国際英語とは自分英語である
  鈴木 孝夫
  冨山房インターナショナル

  830.4
  S-17

  2011　ISBN: 9784905194200　本館 閲覧室２階

ラックストン先生のおすすめ

- The diaries and letters of Sir Ernest Mason Satow (1843-1929), a scholar-diplomat in East Asia

  selected, edited, and annotated by Ian C. Ruxton

  E. Mellen Press

  935
  R-3

  1998　ISBN: 0773482482　本館 閲覧室２階　研究用図書

またはその日本訳

- アーネスト・サトウの生涯：その日記と手紙より

  イアン・C・ラックストン著；長岡祥三, 関口英男訳

  雄松堂出版

  210
  T-24
  10-b

  2003.8　ISBN: 484190316X　本館 閲覧室２階　研究用図書

  電子ブック　https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000008284

アーネスト・サトウは１９９４年本学に赴任して以来小生の研究の中心人物である。語学達者、外交官及び日本学学者（Japanologist）で、大変興味深い英国人である。初めて来日したのは通訳生（Student　Interpreter）として１９歳の若さで１８６２年、生麦事件の一週間ぐらい前の時である。著者として彼の一番有名な本は１９２１年ロンドンで出版された「A Diplomat in Japan」（日本語訳：「一外交官の見た明治維新〈上、下〉(岩波文庫)」。幕末の出来事を生々しく描いた自伝の一部である。日本の幕末明治維新のキーパーソン及び目撃者として知られているが、また在日英国公使として１８９５年から１９００年まで日本に勤めた。その他、シアム（タイ）、中国、モロッコとウルグアイにも外交官として働いた。是非サトウの目から１９世紀と２０世紀始めの日本と諸外国を考えてください。

※　「A Diplomat in Japan」本館閲覧室2階　210||S-40||10

「一外交官の見た明治維新〈上、下〉(岩波文庫)」分館3階総記　081||I-4-1||425-1,2

● 情報工学部

電子情報工学研究系

小田部荘司先生のおすすめ

913.6 H-107 (分館)　913.6 H-138 (本館)

「永遠の０」　百田 尚樹　太田出版

2009.7　ISBN:9784062764131　分館 閲覧３階 文学　学生用図書（講談社文庫）
2006.8　ISBN:9784778310264　本館 閲覧室2階　　学生用図書

戦記物といっていいのでしょうけど、以前ここで紹介した阿川　弘之による「雲の墓標」とか城山三郎による「指揮官たちの特攻」などに比べると、とにかく軽いし読みやすい。いろいろと手厳しい指摘はあるのでしょうが、とにかく読みやすくて若い人たちに戦争ということを知っていただくにはいいのではないでしょうか。これを読まれている頃は映画もできているでしょうから、映画から観るのもいいかもしれません。そして、いろいろな疑問がでたらさらにこのジャンルの本を読み始めると、この本の価値がさらによく分かるのでは無いかと思います。

913.6 M-151 (分館)　913.6 M-240 (本館)

「男あをによし」万城目 学　幻冬舎

2007.4　ISBN:9784344013148　　分館 閲覧３階 文学　学生用図書
本館 閲覧室2階　　学生用図書

本を知人から紹介してもらうのが、一番いいですよね。その知人が間違いないということであれば、ほとんど外れはないですから。ときどきその知人のレベルに達していいとわからないこともありますが。

この本も古い友人から紹介してもらったので図書館で検索して借りました。九工大の付属図書館で借りたときに、かなり本が汚れており、たくさんの方が読んだという感じだったので、安心しました。たぶん九工大生には読みやすい本であるとおもいます。

2008年にはテレビドラマにもなったので観たことがあるかもしれません。主人公は他に人には見えないけれども、鹿にされてしまいます。荒唐無稽な話が続きますが、センスの良さと、のりの良さでどんどん話に引き込まれます。

藤原暁宏先生のおすすめ

「うらおもて人生録」 色川武大　新潮社
（新潮文庫 い-21-2）

914.6
1-45
（分館）

1987.11 ISBN:4101270023　分館 閲覧３階 文学 学生用図書

20代に「生きていくための技術」を学んだ本です 。

「スティーブ・ジョブズ（1）（2）」
ウォーター・アイザックソン；井口耕二訳　講談社

（分館）		（本館）	
289.3	289.3	289.3	289.3
1-1	1-1	1-4	1-4
1	1	1	2

（1）2011　ISBN:9784062171267　分館 閲覧３階 歴史　学生用図書
本館 閲覧室2階　学生用図書
（2）2011　ISBN:9784062171274　分館 閲覧３階 歴史　学生用図書
本館 閲覧室2階　学生用図書

言わずと知れたベストセラーですが、IT業界にいる限りは1度は読んでおきたい本だと思います。プレゼンの上手さや独創性に対する異常なまでのこだわりで有名だったスティーブ・ジョブズですが、その理由を垣間見ることができると思います。

前田佳均先生のおすすめ

■ 「一般システム思考入門」　紀伊國屋書店

ジェラルド・M. ワインバーグ著；増田伸爾訳

501
W-1
（分館）

501
W-24
（本館）

1979.6　ISBN:4314002549　分館 閲覧３階 工学・技術　学生用図書
1987　本館 閲覧３階　研究用図書

システム（全体）を理解する命題が与えられ、その考え方を実践的にし勉強できる。頭の体操のような命題があり、どこまでも思考を続けることが重要であることを思い知る。難解であるが挑戦してほしい。

■ 「草の花」　福永武彦　新潮社（新潮文庫）

1956.3

「福永武彦全小説（第2巻）草の花」新潮社

913.6
F-1
2
（分館）

1973.11　分館 閲覧３階 文学　学生用図書

純粋で変わらない物をもとめる科学につながるエターナルラブを主題にした小説。福永武彦はフランス文学者、九州の生んだ大文学者の一人。福永文学の代表作「風土」，柳川市を舞台にした「廃市」もお薦めです。大学時代に読んでほしい魂の本です 。

■「キュレーション (収集し、選別し、編集し、共有する技術) 」

スティーブン・ローゼンバウム著；野田牧人訳　プレジデント社

2011.12 ISBN:9784833419871　分館 閲覧３階 工学・技術　学生用図書

548.93
R-1
（分館）

キュレーションとは，既存の情報を発掘し、それを本目的にしたがって加工・分析し、付加価値の高いものに編集する技術である。情報を扱う技術者には必須の能力である。

■「キュレーションの時代：「つながり」の情報革命が始まる 」

佐々木俊尚　筑摩書房

2011.2 ISBN:9784480065919 分館 閲覧３階 工学・技術　学生用図書

548.93
S-16
（分館）

情報のつながりによって生まれる新しい価値について一読の価値あり。

機械情報工学研究系

河野晴彦先生のおすすめ

■ 「100年の難問はなぜ解けたのか-天才数学者の光と影-」

春日真人　日本放送出版協会

415.7 K-1 （分館）　415.7 K-1 （本館）

2008.6 ISBN:9784140812822　分館 閲覧３階 自然科学　学生用図書
本館 閲覧室3階　学生用図書

数学の超難問ポアンカレ予想を解いたペレリマン博士と、その難問に挑戦してきた数学者達のノンフィクションです。本当に価値のあるものを生み出すためには、自分を極限まで追い込んで真理を追求する覚悟が必要になります。もちろん、エンジニアとして革新的な発明をする際にも同じことが言えます。この本は、私もオフィスの机にいつも置いているバイブルです。

■ 「手紙」 東野圭吾　文藝春秋（文春文庫 ひ-13-6）

2006.10 ISBN:9784167110116

「手紙」 東野圭吾　毎日新聞社

913.6 H-103 （分館）　913.6 H-83 （本館）

2003.3 ISBN:4620106674　分館 閲覧３階 文学　学生用図書
本館 閲覧室2階　学生用図書

映画化もされた東野圭吾の名作です。ある日、突然身内が殺人を犯してしまった場合、その後の家族の人生はどうなるか。犯罪加害者の家族を社会は決して受け入れてくれない、厳しい現実が待っています。個人的には東野圭吾の本の中でNo.1です。（映画もおすすめです。）

■ 「慟哭」　貫井徳郎　東京創元社 (創元推理文庫)

913.6
N-88
（分館）

1999.3 ISBN:4488425011　分館 閲覧３階 文学　学生用図書

難航する誘拐殺人事件の捜査や警察内部の権力闘争など、よくある話と思いきや、驚かされました。筆者の文章力も素晴らしいです。

生命情報工学研究系

安永卓生先生のおすすめ

- 「マクルーハン理論：電子メディアの可能性」

M.マクルーハン, E.カーペンター編著；大前正臣, 後藤和彦訳

平凡社 （平凡社ライブラリー）

2003.3

「マクルーハン理論：メディアの理解」

マーシャル・マクルーハン, エドマンド・カーペンター編著；

大前正臣, 後藤和彦訳　サイマル出版会

1981.2　　分館 閲覧３階社会科学　学生用図書

361.5
M-11
（分館）

数多くの電子メディアが栄枯盛衰するなかで、電子メディアをどう捉えていけばよいのか、

きちんとした論理だった意見を捉えておくことは今後の発展を考える上でも有効であろう。

- 「理系バカと文系バカ」 竹内薫

PHP研究所 （PHP新書586）

2009 ISBN:9784569706436　分館 閲覧３階 自然科学　学生用図書

404
T-28
（分館）

理系を卒業する皆さんが必要とされる能力はなんでしょうか。

文系・理系と区分けされる日本におけるお互いを知るためにわかりやすく書かれた著です。

人間科学系

栗原好郎先生のおすすめ

『墨汁一滴』『病牀六尺』『仰臥漫録』 正岡子規

081	081	081
1-4-3	1-4-3	1-4-3
13-4	13-2	13-5
	（分館）	

1984.3　ISBN:4003101340　分館 閲覧室3階 総記　学生用図書
1984.7　ISBN:4003101324　分館 閲覧室3階 総記　学生用図書
1983.11　ISBN:4003101359　分館 閲覧室3階 総記　学生用図書

「ずらす」こと　　～正岡子規的生き方～

「草花の枝を枕元に置いて、それを正直に写生してるやうな気がする」

（『病牀六尺』より）

明治22年5月9日、子規喀血。医師から肺病だと診断された子規は矢継ぎ早に四，五十句を作る。「卯の花をめがけてきたか時鳥」、「卯の花の散るまで鳴くか子規」など。時鳥も子規もホトトギスのことだが、肺結核の代名詞でもある。また卯の花には卯年生れの子規自身を仮託しているのは言うまでもない。肺結核という当時は死の病が自分に取り付き、自分は死ななければならないのか、という思いを込めた句だが、子規は余命10年を自覚する。したいこと、出来ることを優先し、生き急ぐ。喜怒哀楽の激しい子規は、見舞いに来た親友夏目金之助に、もう学問を止めて田舎に帰る、とこぼす。そこで夏目が一句。「帰ろふと泣かずに笑へ時鳥」と励ます。政治家になるのが夢だった子規は余命10年の自覚を得て、文学で身を立てようとする。政治家は10年では大成しない。子規は結核に苦しめられながらも、俳句や短歌の革新運動に手を染めていく。しかし晩年は、結核菌が骨を腐敗させるカリエスが悪化し、背中や尻に穴が開き膿が出るまでになっていた。猛烈な痛みが体中に走り、普通だったらその痛みに耐えることだけに終始しそうなところだが、子規は違った。彼が亡くなる前年の明治34年に書かれた『墨汁一滴』という随筆の一節。「ガラス玉に金魚を十ばかり入れて机の上に置いてある。余は痛をこらへながら病床からつくづくと見て居る。痛いことも痛いが綺麗な事も綺麗ぢや」と。当時、子規は自分が勤めていた「日本」という新聞に日記のような随筆を書いていた。痛みに耐える子規の痛々しい姿だけがクロースアップされそうな晩年の末期的な病状だが、ちゃんと金魚の綺麗さにも目を配っている。生きるための知恵と言ってしまえば簡単だが、七転八倒の苦しみの中で病気以外のことを考えることは、そう生易しいことではないだろう。痛みをそらすことで一時、

別世界に遊ぶ、いわゆる「ずらし」のテクニックは、子規を悲劇の主人公にしなかった。心の余裕すら感じる子規の視点の「ずらし」は、病気で苦しんでいる子規自身をも客観化するものだった。普通なら一番避けたい結核を意味するホトトギス（子規）を自分の号に選び、病気と共に生きた子規の周りにはいつも誰かがいた。そして、詩歌を作り、雑談をし、ご馳走を食べるという、病気が持つ暗さとは正反対の明るさが子規庵にはあった。子規はそうした暮らしぶりを「病気を楽しむ」と呼んだ。

子規は22歳の時に、当時は不治の病である肺結核になり、30歳になるとほぼ寝たきりになってしまう。そして34歳11ヶ月という若さで死んでしまう。しかし、晩年の寝たきりの5年間が一番いい仕事をしている。文学の革新は言うに及ばず、死の3年前から中村不折にもらった水彩の絵の具で絵を描き始める。枕に頭を付けたまま、仰向けになって、画板に紙をはり、画板の方を動かしながら絵を描いた。絵を描くことは動けない子規にとっては無類の楽しみとなった。限られた空間しか目には入らぬが、通常ちょっと目には見えない細部が、寝たきりで寝返りすら打てない子規には見えてくる。四季の移り変わりにも敏感に反応し、しばし病気のことを忘れられる。動けない子規が見出した写生の喜び。彼の病室の前庭には日覆いのための糸瓜棚が設けてあったが、それを下から斜に見上げて、子規は写生をし、句を作った。その意味では、俳句や短歌、さらに文章の革新は子規にとっては、文学の革新というより病気の気晴らしという側面を持っていた。

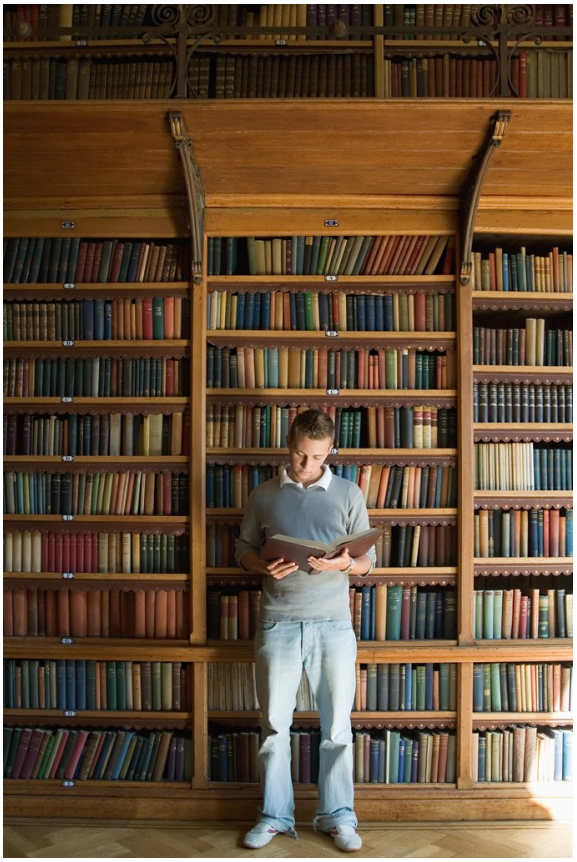
明治35年9月19日未明、子規は亡くなった。遺体を整えるために母は子規の肩を抱いて起こした。そして、松山弁で息子に語りかけた。「さあ、も一遍痛いというてお見」

＜参考文献＞

河東碧梧桐 著『子規の回想』沖積舎, 1998

和田茂樹 編『漱石・子規往復書簡集』岩波書店, 2002

坪内稔典 著『柿喰ふ子規の俳句作法』岩波書店, 2005



これからも素敵な本と出会って下さい。

■編集・発行■
九州工業大学附属図書館
図書館サービス係・情報工学部分館図書係
2014年2月（第3版）
tos-service@jimu.kyutech.ac.jp
tos-jhotosyo@jimu.kyutech.ac.jp